子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Risk of self-harm ideation in mothers of children with orofacial cleft defects: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

口唇裂児の母親における自傷リスク: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Frontiers in Global Women's Health

年: 2024 DOI: 10.3389/fgwh.2024.1302808

筆頭著者名: 土谷 忍

所属 UC 名: 宮城 UC

目的:

外表奇形である口唇裂出生と母親の自傷リスクとの関連を明らかにすることを目的としました。

方法:

研究目的に合致した 100,300 名を解析対象とし、口唇裂・口蓋裂を伴わない群(100,062 名)、口唇裂/口唇口蓋裂群(186 名)、口蓋裂群(52 名)の 3 群に分け、自傷リスクの有無(1 ヶ月と 6 ヶ月時のエジンバラ産後うつ質問票の自傷に関する項目結果を利用)を目的変数として、多変量ロジスティック回帰分析により、オッズ比および 95%信頼区間を算出しました。また、共変量は母体年齢と出産経験、母体の喫煙・飲酒習慣、教育歴、出産前の精神疾患罹患の有無、および世帯収入、パートナーサポート、子どもの性別、子どもの併存疾患の有無としました。

結果:

産後 1 か月および 6 か月ともに自傷リスクについて反応を示した母親は、子どもの口唇裂あり群で有意にリスクが高く(オッズ比: 2.36 [95%CI: 1.43-3.89], $p = 0.001$)、子どもの口蓋裂群ではそのような傾向は認められませんでした(オッズ比: 0.69 [95%CI: 0.16-2.91], $p = 0.609$)。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、産後期の口唇裂児の母親は自傷行為のリスクと関連している可能性が示唆されました。この研究結果は、口唇裂・口蓋裂の乳児を持つ母親に対して多分野のサポートが必要であることを示しています。しかし、エコチル調査では、出生前診断や詳細な手術歴についての情報が不足しており、また口唇裂による母親の自傷リスクが口蓋裂よりも高くなるメカニズムが不明確であるため、さらなる研究が必要と思われます。

結論:

産後期の子どもの口唇裂は母親の自傷リスクが有意に高いことが分かりました。その一方で、類似疾患である口蓋裂ではそのような関連は示されませんでした。口唇裂は代表的な外表奇形であり、それに伴う精神的ストレスが母親の自傷リスクを増加させたものと推察されます。